

だった。設備投資にはばく大な費用が必要であるが、人のために命を守り育てるための設備投資には市民も納得するのではないかと、期待と夢を膨らませることができた視察となった。
 (頓宮美津子)

産業水道委員会

交通アクセス整備で県内外から84社誘致

鹿児島・霧島市

5月10日から12日にかけて、鹿児島県内の都市の行政視察を行った。

まず、10日は「企業誘致への取り組み」について観光のまち霧島市を訪れた。霧島市は県の中央に位置し、鹿児島空港や九州自動車道等の交通アクセスが整っていて、豊かな自然環境、水と電力供給に恵まれ、現在では25haにも及ぶ広大な工業団地、そして優遇制度を活用しながら、IT

産業をはじめ県内外から84社の企業誘致に取り組んでいた。行政に頼らない地域再生収益金からボーナスも

鹿屋市・やねだん

11日は、鹿屋市柳谷(旧・申良町柳谷)、通称「やねだん」自治会長の豊重哲郎氏を訪ねた。平成8年から自治会長を受け(当時55歳)、行政に頼らない地域再生を進めていったという。高齢化と過疎が進む約130戸、300人が共存する柳谷地区の活性化こそが「まち」の発展につながる

と信じ、まず高校生クラブによる「からいも」栽培が始まった。それに老人たちが声をかけ、指導、協力。今では10町歩に及ぶ「からいも」の栽培から特産品の焼酎「やねだん」等の販売に至り、収益金の一部から住民にボーナスが支給されるようになった。地域づくりのために遊休地



飼料と悪臭対策の産物「土着菌」

を役所から借り受け、雑草の刈り取り、整地、山からの木材の切り出し、作業分野ではそれぞれの経験を生かした住民全員参加の奉仕作業で「わくわく運動遊園」を建設。「からいも」の収益金から健康器具を設置するなど、「ゆうあいの広場」として広く活用されている。また、独居老人には緊急呼出灯の設置。有線放送等を活用して、母の日には、異郷の子からのメッセージ代読など、子から親への感謝の気持ち、親から子への感動は

心のしみるものがあった。情熱とは、「知恵」(ひらめき)、汗(即行動)、勇気と度胸(思いやり)、共存(優しさ)、そして共有(認め合う)、人的「力」であり続け、次世代に向かって生き続けていくとのことであった。

次に、土着菌への取り組みについて紹介したい。申良町では、県下でも畜産農家が多くあり、環境面でも悪臭やハエの多さに目を見張るものがあったとのこと。そこで土着菌に目をつけ、悪臭対策、生ごみの処理、飼料に混入させることで家畜の病気の減少、肥料へと幅広く活用されていた。総社市でもごみの減量化、肥料化に大いに参考になるのではないかと思う。

12日は南九州市を訪れ、農業公社の現状と今後のあり方、そして総社市の農業公社「きびの里」との比較について勉強した。
 (小西義巳)

建設消防委員会

駅前再々開発事業で民間提案の複合施設

三重・桑名市

5月10日から12日にかけて、三重県桑名市と茨城県土浦市において駅前周辺整備事業、景観まちづくり事業の視察を行った。

桑名市は昭和45年から52年にかけて駅前再開発事業を行ったが、バブル崩壊後、再開発事業の商業ビルが管理会社の倒産により閉鎖され、また郊外型大型店舗の進出や経営者の高齢化等により、中心市街地の小売業者が倒産や廃業に追い込まれた結果、空き店舗が増え、商店街の賑わいが喪失するなど活力は大きく低下していた。



商業・オフィス・公共施設などが入った駅前複合施設「サンファール」

とにより、桑名コンパクト都市をコンセプトに「再々開発事業」を行った。特に桑名市の玄関としての役割を担い、桑名駅前複合施設「サンファール」は平成18年4月にオープンした。この施設は多様な市民ニーズに答えるため、民間からの提案を取り入れた商業施設・オフィス・分譲マンション・公共施設(各種届出、申請、収納業務等)・立体駐車場から成っている。また、(株)まちづくり桑名を設立し、空き店舗対策事業、チャ

レンジショップ事業、サンファール管理運営事業等を行っている。総社市においても、市街地の活性化に時間がかかっても、市民とともに考えていくべきだと感じた。

電線の地中化で歴史街並み景観を向上

茨城・土浦市

景観まちづくりを進めている土浦市は、歴史の小径整備事業として、土浦城址、まちかど蔵「大徳」「野村」、県指定の文化財である矢口家住宅等、亀城公園や旧水戸街道沿いの地区に点在する多くの歴史的資源の保全と活用、さらに商店街の活性化を図るため、これらを結ぶ道路の修景整備を行い、回遊性や界わい性を創出することにより、地域の活性化と快適な居住環境、街並み景観の向上を目標として整備を行っている。電線の地



電線の地中化が行われている歴史の小径

中化や自然石の舗装、透水性カラー舗装、高齢者や障がい者が歩きやすいよう段差の解消等により、人にやさしく安全でにぎわいのある都市空間を創出している。土浦市も行政だけで進めているのではなく、市民との話し合いで進めている。

今回の視察で民間の活力を利用し、市民とともに考え整備し事業を行うことが大切だと、より強く感じたところである。
 (津神謙太郎)